

## アルコール健康障害に関する状況

## 1 アルコール依存症者

○平成 25 年の厚生労働省の研究班調査では、全国のアルコール依存症の生涯経験者数（アルコール依存症の診断基準に該当する者又はかつて該当したことのある者）は約 109 万人と推計され、生涯経験者数については、調査を開始してから初めて 100 万人を超えたとの報告がなされた。

⇒ この結果を富山県に置き換えた場合、県内のアルコール依存症の生涯経験者数は約 9,200 人と推計され、これは 20 歳以上の人口の約 1%に該当する。

## ◆生涯経験者数（厚生労働省・研究班）

	全国	富山県
診断基準によるアルコール依存症 (ICD-10)	計 109 万人 (男性 95 万人、女性 14 万人)	約 9,200 人 (男性 8,000 人、女性 1,200 人)

・出典：全国数値…厚労省研究班調べ（平成 25 年の調査結果を平成 24 年 10 月の日本人口で推計）。

富山県数値…全国数値に平成 24 年 10 月の 20 歳以上男女の本県総人口比率を乗じて算出。

○厚生労働省の患者調査におけるアルコール依存症の総患者数（全国）は、約 4 万人前後で推移しており、平成 26 年は 4.9 万人と推計されている。

## ◆全国の総患者数（厚生労働省・患者調査）

	平成 11 年	平成 14 年	平成 17 年	平成 20 年	平成 23 年	平成 26 年
アルコール依存症	3.7 万	4.2 万	4.3 万	4.4 万	3.7 万	4.9 万

・総患者数…調査日現在において、継続的に医療を受けている患者の推計数。

○アルコール依存症は、主に精神科での治療が必要な精神疾患であるが、県内で入院や通院（自立支援医療を利用）により治療を行っている者は、平成 27 年度で、入院 69 名、通院 146 名となっている。

・入院…精神保健福祉資料調査より（基準日：平成 27 年 6 月 30 日）。

・通院…自立支援医療（精神通院医療）として、医療費自己負担軽減の公的支援を受けている受給者数より。（基準日：平成 28 年 3 月 31 日）

※入院・通院とも（ICD-10）「アルコール使用による精神及び行動の障害（F10）」による。

## 2 不適切な飲酒者の状況

### (1) 多量飲酒者

○全国：平成 12 年度から平成 24 年度までの健康日本 21（第 1 次）において、多量に飲酒する人を「1 日平均純アルコール約 60 g を超えて摂取する人」とし、この割合の低下を目標として取組が行われてきた。平成 21 年の国民健康・栄養調査では、この割合は、男性 4.8%、女性 0.4%であり、最終評価において「改善はみられなかった」と報告された。（平成 26 年では男性 5.0%、女性 1.2%）

○本県：平成 22 年県民健康栄養調査では、男性 3.9%、女性 0.5%であった。

#### ◆多量飲酒者

- ・男女とも 1 日当たり純アルコールで約 60 g 以上飲酒する者。アルコール 60 g とは、①ビールなら中瓶（500ml）3 本、②日本酒なら 3 合、など。
- ・多量飲酒者の求め方は、調査対象者数のうち「①1 回あたりの飲酒量が 5 合以上の人、②又は 4 合以上 5 合未満で飲酒の頻度が週 5 日以上の人、③もしくは 3 合以上 4 合未満で頻度が毎日の人」の数の割合。

### (2) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者

○全国：平成 25 年度からの健康日本 21（第 2 次）では、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」の割合を平成 34 年度までに男性 13.0%、女性 6.4%とすることを目標としている。平成 26 年国民健康・栄養調査では男性 15.8%、女性 8.8%であり、平成 22 年以降の推移でみると男性は横ばい、女性は上昇している。

○本県：平成 22 年県民健康栄養調査では、男性 14.3%、女性 2.0%であった。

#### ◆「生活習慣病のリスクを高める量の飲酒」（国民健康・栄養調査）

- ・1 日当たりの純アルコール摂取量が男性で 40 g 以上、女性で 20 g 以上の者。男性は①ビールなら中瓶（500ml）2 本、②日本酒なら 2 合、など。（女性は男性の半分）。
- ・「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」は、調査対象者のうち、以下の者の割合による。
  - ① 男性：「毎日×2 合以上」＋「週 5～6 日×2 合以上」＋「週 3～4 日×3 合以上」＋「週 1～2 日×5 合以上」＋「月 1～3 日×5 合以上」（飲酒量は一日あたりの量）
  - ② 女性：「毎日×1 合以上」＋「週 5～6 日×1 合以上」＋「週 3～4 日×1 合以上」＋「週 1～2 日×3 合以上」＋「月 1～3 日×5 合以上」（飲酒量は一日あたりの量）

#### 【不適切飲酒の状況】

区 分		性別	平成 22 年	平成 24 年	平成 26 年
多量飲酒者	全国	男性	5.0%	5.0%	5.0%
		女性	1.2%	0.7%	1.2%
	富山	男性	3.9%	—	—
		女性	0.5%	—	—
生活習慣病のリスクを高める飲酒者	全国	男性	15.3%	14.7%	15.8%
		女性	7.5%	7.6%	8.8%
	富山	男性	14.3%	—	—
		女性	2.0%	—	—

※全国値は国民健康・栄養調査より。富山県数値は県民健康栄養調査より。

【参考】適切な飲酒量（健康日本 21 より）

- ・ 通常のアルコール代謝能を有する日本人の「節度ある適度な飲酒」の量は1日平均純アルコールで約20g程度（ビール中瓶1本程度）とされる。
- ・ 但し、①女性は男性よりも少ない量が適当、②少量の飲酒で顔面紅潮を来す等アルコール代謝能力の低い者は通常の代謝能を有する人よりも少ない量が適当、③65歳以上の高齢者はより少量の飲酒が適当、④アルコール依存症者は適切な支援のもとに完全断酒が必要、⑤飲酒習慣のない人に対してこの量の飲酒を推奨するものではない、ことに留意。

（3）未成年・妊婦の飲酒（国計画より）

○未成年の飲酒

- ・ 全国調査によれば、調査前30日に1回以上飲酒した者の割合は、平成8年では、中学生男子29.4%、中学生女子24.0%、高校生男子49.7%、高校生女子40.8%であったが、平成24年には、中学生男子7.4%、中学生女子7.7%、高校生男子14.4%、高校生女子15.3%と減少し、また、男女間でほぼ差がなくなっている。

【未成年者の飲酒（全国）】 調査前30日に1回以上飲酒（H24.10～12月末にかけ調査）

		平成8年	平成24年
中学生	男子	29.4%	7.4%
	女子	24.0%	7.7%
高校生	男子	49.7%	14.4%
	女子	40.8%	15.3%

【不良行為少年の補導人数・飲酒】（人数）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全 国	24,406	18,973	17,028	17,089	16,724	15,481	14,153	12,191	11,681
富山県	84	93	64	71	73	68	68	59	48

○妊婦の飲酒

- ・ 全国では平成22年は8.7%であったが、平成25年には4.3%と減少した。  
（出典：H22は乳幼児身体発育調査、H25は厚生労働省科学研究）

### 3 その他

#### (1) 飲酒習慣者の割合（都道府県別）

○平成 22 年の国民健康・栄養調査（厚生労働省）において、都道府県別の成人男性の飲酒習慣者割合が公表されており、全国平均は 35.9%、富山県は 39.8%であった。

都道府県名	飲酒習慣者（成人男性）	
	割合	順位
青森県	51.6%	1 位
鳥取県	48.5%	2 位
島根県	48.3%	3 位
秋田県	46.9%	4 位
岩手県	46.1%	5 位
<b>富山県</b>	<b>39.8%</b>	<b>9 位</b>
（全国）	35.9%	—

- ・出典：国民健康・栄養調査（厚生労働省）。平成 18 年～22 年の 5 か年分の調査データを用いて都道府県別のデータを公表。
- ・「飲酒習慣のある者」とは、週に 3 日以上飲酒し、飲酒日 1 日あたり 1 合以上を飲酒する者。

#### (2) アルコール販売（消費）数量（国税庁調べ）

- 日本の酒類の販売（消費）数量の動向は、平成 8 年度の 966 万キロリットルをピークに減少傾向にあり、平成 26 年度の販売（消費）数量は平成 8 年度の約 9 割の 833 万キロリットル。
- 酒類販売（消費）数量を成人 1 人当たりで見ると、平成 4 年度の 101.8 リットルをピークに減少傾向にあり、平成 26 年度は平成 4 年度の約 8 割の 80.3 リットル。

### 4 アルコール健康障害をめぐる状況（ポイント）

（国のアルコール健康障害対策推進基本計画より）

- 我が国全体のアルコール消費量は減少傾向にあり、成人の飲酒習慣のある者及び未成年者の割合も、全体として低下傾向にある。
- 多量に飲酒している者の割合は男女とも改善しておらず、一部の多量飲酒者が多くのアルコールを消費している状況がある。
- 特に女性については、飲酒習慣のある者の割合は横ばいが続き、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、有意に上昇している。
- 未成年者の調査前 30 日に 1 回以上飲酒した者の割合は、男女間でほぼ差がなくなっており、相対的に女性のアルコール健康障害対策の重要性が増している状況にある。